「Der Stürmer」編集アシスタント、エーリッヒへのインタビュー、ニュルンベルク、1988年。

「デア•シュテュルマー紙が、他のどの日刊紙や週刊紙よりも、ユダヤ教の危険性をシンプルな方法で人々に明らかにしてくれたと言えることをうれしく思います。 ユリウス•シュトラ

イヒャーと彼のストライカーがいなかったら、ユダヤ人問題の解決の重要性は多くの人にとって現実のものになっていただろう。

ユダヤ人問題についてのありのままの真実を知りたい人が『シュテュ 彼女はそれ それは だからそれを願っています

ルマー』を読むほど、国民は批判的に見られることはないでしょう。」

-アルバート•フォスター、ダンツィヒの会計士、1937年。

お話しさせていただきありがとうございます。新聞社に携わろうと思ったきっかけは何ですか？

エーリッヒ: それを聞くのはあなただけでしょう。私はジャーナリズムの学生で、私と同じ政治的思想を持つフィリップ•ルプレヒトに会いました。 [ルプレヒトは、「フィップス」というペンネームで、デア•シュテュルマーのために文字通り何千ものユダヤ人の風刺画を描いた。彼は 1938 年に有名な児童書「毒キノコ」の絵も描きました。]彼は 1936 年に私をユリウス シュトライヒャーに紹介してくれました。私はスタッフとして受け入れられ、エルンスト•ハイマーのアシスタントとして雇用されました。



グダニスクの新聞「デア•シュトゥルマー」社、1935年頃

[ハイマーは『シュテュルマー』に寄稿しましたが、第三帝国の書籍の中でも特に児童書『ギフトピルツ』の著者でもありました。] 私はニュルンベルクのフュルトと呼ばれる地域に住んでいましたが、そこにはニュルンベルク市に比べてユダヤ人の人口が多かったです。私は歴史、特にヨーロッパのユダヤ人に興味がありました。シュトライヒャーは、自分と同じようにこれらのテーマに熱心な若者に会えてとてもうれしかったです。私は新聞社で働いており、エルンストとよく電話で話し、エルンストが書きたいテーマについて調査してほしいと頼まれました。私は多くの時間をアーカイブで過ごし、ユダヤ人とキリスト教の主題を扱った原稿を研究しました。私は…するだろう


フィリップ•ルプレヒトはフィップスというペンネームで活動していた
反ユダヤ週刊誌『Der』の主力漫画家
ストライカー

研究のための出張費もよく支払われます。 『Der Stürmer』はドイツで、その後ヨーロッパでも人気の新聞でした。

あなたは自分自身を反ユダヤ人だと思いますか?

エーリッヒ: いいえ、私はそうは思いません。説明させてください。私はまず国民を愛しており、真実を話すことで彼らを守りたいと思っています。だからといって、私が彼女が真実を語ったことが嫌いだというわけではありません。私たちは常にまず国民を愛さなければなりませんが、憎んではなりません。私たちは自国民に起こっていることを憎み、それが私たちをその背後にいるユダヤ人に導きました。他の多くのドイツ人と同様に、私もこのグループに何か問題があると感じました。彼らはこの国では少数派でしたが、権力と富のほとんどを握っており、いわば巧妙に仮面の後ろに隠れていました。彼らは、貧しく、無力で、あらゆる考えを受け入れられるというイメージを投影しました。しかし、彼らの行動は大きく異なりました。

彼らはできる限りドイツ人らしく振る舞おうと努めましたが、顔の特徴が何度もドイツ人を裏切ってしまいました。彼らはお互いを望んでいた



ベルリンの新聞スタンド、1929 年

完全には従わなかったし、多くの人は私たちの文化を破壊しながら目立たないように努めました。彼らはさらに大胆になり、私たちの文化の排除を要求しました。教会と同様にキリスト教も攻撃されました。彼らは教会を内部から破壊するために教会に侵入したと言います。司祭の中には、自分たちがアーリア人であり、ユダヤ人の特徴をすべて備えていることを証明できなかったため、解任された人もいた。たまたま彼らは、人種的絶滅と同性愛を信者たちに広めていたのです。

1920年代後半、彼らは大都市におけるユダヤ人の影響から逃れることができなかった。彼らは映画監督、銀行家、弁護士、不動産業者、その他すべての裕福なビジネスマンでした。私がこのことを知っていた理由は、父が第一次世界大戦で亡くなり、母はイギリスの封鎖によって1919年に亡くなり、多くの人が栄養失調や病気になったため、祖父母が私を育ててくれたからです。祖父はユダヤ人をよく知っていて、彼らの見方を私に教えてくれました。当時のヨーロッパではそれが一般的だったため、十分に深く隠れることができませんでした。彼は私に、黒い目、鉤状の鼻、肌の色、玉のような目、ネズミの耳、そして彼らがつけた名前を探すように教えてくれました。ユダヤ人は人種的特徴を示すため、簡単に見分けられます。彼らはこれを変えるために溶け込もうとしますが、その特徴が現れます。


ベルンハルト•"イシドール"•ヴァイス

そのため、ドイツではユダヤ人が著しく過多であることが新聞でわかりました。

売春婦、犯罪者、児童性的虐待者でさえ、大半がユダヤ人でした。あまりにひどかったため、ユダヤ人が犯した犯罪を軽視し隠蔽するためにベルリンにユダヤ人の警察署長が設置された。彼はベルリンでナチスを終わらせるために精力的に働き、試合が終わると国外へ逃亡した。

私もこの問題には気づいていましたが、ユダヤ人を憎んだことはありませんでした。私は彼らの偽善と、彼らが我が国の人々に対して仕掛けていた秘密の戦争を暴露するために働いてきました。


1935年、遠足中のユリウス•シュトライヒャー

ユリウス•シュトライヒャーについて他に何を知っていますか?

エーリッヒ: 彼は良い上司で、とてもフレンドリーで、怒るのが遅かったです。私は早い段階でたくさんの間違いを犯しましたが、彼とエルンストはとても寛容で、素晴らしい教師でした。今日、シュトライヒャーについては多くのことが言われていますが、連合軍は特別な人材を派遣してヨーロッパ中を調査し、シュトライヒャーに関する情報を探していました。ご存知のとおり、彼は殉教者として絞首台で処刑されました。
想像してみろ。彼は法律新聞を経営する個人起業家で、勝者は自分の意見を述べただけで彼を殺害することができた

出版されました。勝者の偽善って本当にすごいですね。

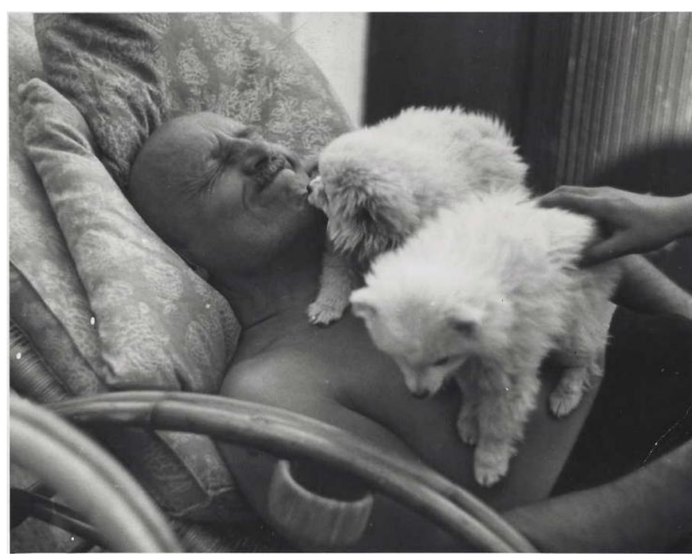
ストライダーは非常に人気があり、特に旧衛兵に属し、血の騎士団の担い手であったため、多くの祝宴や夕食会に招待されました。彼は、自分の知っている金持ちや有名人、さらには海外の人々についても、人々



がいかに人種的意識を持っているかについて頻繁に語った。彼の妻はよく私たちにおやつを持ってきてくれましたし、息子たちも新聞社で働き、物語を書いたり、文章を植字したりしていました。当初、私たちにはアデルという名前の女の子がいましたが、彼女は彼の個人秘書となり、戦争の後半に彼の農場にやって来ました。

彼はクリスマスにはいつもボーナスをくれて、私たちのあらゆるニーズが満たされるようにしてくれました。エルンストの記事のサンプルを持って仕事に向かう途中、路面電車に乗ろうとしてフォルダを落として中身が散乱したことを思い出します。運転手は私を怒鳴りつけ、運転を止めた私を非難しました。これは無礼でマナー違反だと思い、オフィスに着いたときに腹を立てました。シュトライヒャーは私の尻に何があったのかと尋ねたので、私は彼にすべてを話しました。彼は運転士事務所に電話し、市電会社の社長に電話してほしいと頼んだ。 10分後、運転手から電話があり、運転マナーを見直すよう言われた。

私はその男について本当に悪いことは何も言えませんが、今日では党内の多くの人が彼を好きではなかったと言われています。彼には欠点があり、人気があったため、多くの噂が広まりました。私はいつも、一部の党幹部の耳を未だに持っていた有力なユダヤ人がこうした噂を広めたのではないかと疑問に思っていた。彼はとても良い上司でした。彼が農場で働くために囚人を使っていたことも覚えています。アデルは、彼らに自由を与えたためにトラブルになったと私に言いました。一人はフランスから来た人で、病気の母親を見舞いに家に帰ることを許可してくれました。



この写真は、シュトライヒャーの田舎の屋敷からアメリカ兵によって他の人と一緒に盗まれた。それらは 1930 年代に録音されました。

シュトライヒャーさんは彼女がきちんと世話をされていることを確認し、彼が望むときはいつでも自由にさせました。彼は従業員（そう呼んでいた）に旅行に行くためのパスを提供した。そのうちの一人は、特別なビールを求めてローテンベルクの古い修道院に行きました。そこで彼らは、囚人たちがまるで休暇中であるかのように走り回っていることに腹を立てた、気配りのある警官に出会った。彼はそのために罰せられましたが、彼は残酷ではなかったので気にしませんでした。時々彼らは新聞社に掃除やメンテナンスをしに来て、それから私たちは彼らと一緒に昼食をとりました。少女たちの何人かは東部からの有給労働者で、とても人気がありました。

あなたは党幹部が彼のことを好まないとおっしゃっていましたが、私はそう聞いています。コメントいただけますか？

エーリッヒ: はい、ご存知のとおり、彼は他人の悪行を明るみに出してトラブルに巻き込まれました。しかし、彼はガラスの家に住んでいて、政府の悪者を攻撃すると、彼らは彼を追いかけました。 1938 年 11 月の暴動のときのことを覚えています。

「水晶の夜」と呼ばれる]は攻撃を称賛し、正当な非道行為であると述べた。その後、彼はドイツのイメージを傷つけた暴動を助長したとして他の人たちを非難したが、その後、彼らは彼が暴動を助長したと都合よく指摘した。これは息子たちにとって恥ずかしいことでした。

ゲーリング帝国大臣とも口論になったと聞いた。ゲーリングは裕福な貴族でユダヤ人の友人が多く、彼らの信用が失墜するのを好まなかった。彼はシュトライヒャーを攻撃したが、これらの攻撃は返された。ゲーリングは帝国における新しいことに関しては常に先頭に立っていました。シュトライヒャー氏が新しい技術を見て娘を不自然に産んだのではないかと提案したとき、彼は病院の展示会に出席していた。これにゲーリングは激怒し、新聞社を廃刊にしようとした。



彼はまた、フュルトにあるユリウス•シュトライヒャーのかつての農場（プレイカースホーフ)の悪癖も持っており、現在はそこがユダヤ人間の農業紛争における自身の訓練場となっている。 1946 年に米国賠償任務中に撮影された写真。エドウィン•ポーリーに対する彼の立場は、 1945年から1947年まで連合国賠償委員会（枢軸国が戦勝国に支払うことができる賠償額を評価する委員会で、彼の主張を通すために使用された)の米国大使を務めた。そのため、双方が干渉したとして彼に激怒することもありました。これらの問題のため、彼は党の指導的地位から解任され、新聞社の責任者に任命された。その後、彼はますます引きこもり、1943年に妻が亡くなったときも農場に残りました。それから彼は、アデルにますます傾倒しました。彼女はとても思いやりのある人で、痛みを癒す性質だったため、彼女は気にしませんでした。

私はいつも水晶の夜について疑問に思っていました。何を覚えていますか?シュトライヒャーがあなたをサポートしてくれましたか?

エリック: はい、いいえです。当初、彼はユダヤ人の行為を憎んでいると言って暴動を歓迎したが、ヒトラーとナチズムに対する悪い報道も望んでいなかった。同氏は、暴動を止めるのに十分な迅速な行動をとらなかった党幹部の怠惰を非難した。ここニュルンベルクでは、いくつかのユダヤ人の商店と同様にユダヤ人のシナゴーグが放火され、暴徒に反対したユダヤ人が襲撃され、一部が殺害された。しかし、それがどのようにして生まれたのかをお話ししたいと思います。なぜなら、それは目に見える以上に多くのことが含まれているからです。ナチス党の初期の頃から、標的になりやすい人々を殺害することは、敵が使用する戦術でした。その証拠として、殉教者に関する分厚い本がミュンヘンに保管されていました。総統が選出されるとすぐに、他国のユダヤ人は宣戦布告し、わが国の役人を殺害し始めたが、これは新聞が認めようとしている以上に頻繁に起こった。ドイツでも1933年に暗殺事件があったが、ヒトラーはシオニストと協力して解決策を見つけ出そうとした。



エルンスト•エドワード•フォン•ラート（1909-1938）。ドイツの外交官。 1938年11月、ハーシェル•グリンシュパンに射殺され、パリの病院にあるラースの遺体。

最後の危機は1938年11月にラート（在仏ドイツ人外交官）が暗殺された時で、彼は有名だったので多くの人を動揺させた。マスコミはこの事件を大々的に取り上げないよう努めたが、殺人犯が再びユダヤ人だったことから、この行為を軽視することはできなかった。これが起こりました

パーティーにとって最も神聖な日に。多くの学生、現•元SA隊員、民間人が立ち上がり、ユダヤ人を攻撃し始めた。ユダヤ人は後に反ヒトラーの落書きで逮捕された。彼らは路上や壁に絵を描くので、汚れを掃除する必要がありました。彼らは今、迫害の証拠として写真を公開している。

ここニュルンベルクでたむろしている群衆を見たことが確かです。彼らは、一緒にいるほど怒ったと言います。その後、窓の外を見ると、シナゴーグから煙が出ているのが見え、彼らがシナゴーグに火を放ったことが分かりました。



フュルトのエッセンヴァイン通りにある正統派シナゴーグの廃墟
「クリスタルナイト」

消防署が来ると聞いたが、何もできなかった。シュトライヒャーは、それに関する記事を書くために私たちを会社に呼びましたが、彼もこの盲目的な怒りの閃光に激怒しました。彼は、ユダヤ人を街から追い出すには、より慎重で規律あるアプローチが必要であると感じた。私は彼がシナゴーグの取り壊しを命じたことを知っています。彼女は区画規制か何かに違反したと思います。彼はこれを彼らの権力を打破する例として使いました。

ドイツのユダヤ人は、ユダヤ人テロリストに対する彼らの正義の怒りを目の当たりにし、マルクス主義の擁護を誰が忘れることができるでしょうか？

あなたの国では、日本人は自分たちが引き起こしたわけではない出来事に対する憎しみに耐えなければなりませんでした。これは、集団的な罪悪感がどれほど人々を悩ませているかを示しています。従業員の中には、この 2 つを区別できない人もいました。特に彼の息子たちは、帝国およびすべてのキリスト教国からすべてのユダヤ人を完全に排除することを求める記事を推進した。 「善良なユダヤ人」が存在せず、全員が出身国に強制送還されなければならなかった人たちもいた。

こうしたことを踏まえると、あなたはホロコーストが起こったと信じますか、またその責任を感じていますか?

エーリッヒ: この質問についてはオープンに話すことができないため、慎重に扱う必要があります。収容所で何が起こっているのか、私は何も知りませんでした。シュトライヒャーはそのことについて一度も言及しなかったし、私たちが話していたのは、ユダヤ人を出身地である東方に連れ戻してほしいという願望だけだった。ユダヤ人がヨーロッパ全土から追放されていることは知っていますが、それを隠すことはできず、私たちが聞かされたのは、彼らが再定住するために東に送られるということだけでした。

繰り返しますが、すべてのユダヤ人が追放されたわけではありません。彼らが帝国に奉仕していたり、政治に無関心だったり、キリスト教徒と結婚していたりした場合、彼らは放っておかれました。

戦後の関係者との会話から、ユダヤ人をロシアに連れてきて定住させる計画だったようだ。この活動を実行した親衛隊事務所で働いていた友人がいました。彼は、多くの人がパレスチナに移住するために報酬を得たとさえ述べた。簒奪者や泥棒として指名手配されていた裕福な人々が彼らを追った



ワイマール•ベルリンのタウエンツィエン•ガールズ（下級売春婦）、1920年代

アメリカとイギリスは安全な新祖国から反ヒトラーを扇動した。私には後悔はありません。私たちはこの人々の物語についてできる限り真実を伝えてきました。彼らは私たちの土地にやって来て、莫大な富を築き、そして私たちに自分たちの生き方を押し付けて、私たちに対して戦争を仕掛けてきました。権利を制限したり、無名のグループに特別な特権を与



えたりする会議が開かれるときは、常にユダヤ人がその背後にいた。彼らは性の倒錯のために戦い、人妻を誘惑し、利用し、そして古い雑巾のように捨てました。ユダヤ人の時代と呼ばれるワイマール時代には、女性が麻薬を盛られ、性行為に使われ、虐待され、売られていたため、自殺者が急増し、厳格な法律によりユダヤ人に対する発言は犯罪とされていたため、男性にはそれを止める力がなかった。

密輸、麻薬、組織犯罪、サディスティックな犯罪の背後には、ほとんど常にユダヤ人の顔や名前があったスパイダー: このアートワークは、『Der Stürmer』誌の 1935 年 6 月号の表紙を飾りまし
た。写真の説明には、「セックス、同性愛、児童ポルノ、多くの被害
者がネットにはまり込んだ」と書かれていた。お世辞のトーンで捉えられています。詐欺、贈収賄、脅迫
の偽善の網を打ち破りましょう。あなたはドイツの若者を自由にしました。』立ち往生。また、ウェブの一部には「お世辞」、
「お世辞」、「約束」、「寄り添
らはごく少数でしたが、これらの行為の大部分を犯したのです。という言葉が含まれていることに気づくでしょう。彼らにやられた。彼
れを見た人々の怒りは理解できましたし、より多くの人々にこの危険性への意識を高める手助けができ
たことをうれしく思いました。彼らに何が起こったのか、私は誰にも望んでいませんが、彼らの憎しみに満ちた指導者たちが戦争を呼びかけることによってそれを引き起こしました。これはユダヤ人金融家が歴史的に非常に得意としていたことです。彼らは私たちに対して聖戦を仕掛け、勝利しました。

これらの人々が私たちのところにやって来て、私たちを餌にし、私たちを利用し、そして私たちが彼らを罰し、暴露したとき、彼らが憎むものを破壊するために戦争を始めたことに私は怒りを感じます。
彼らは何千人もの自国民の死を引き起こし、その後私たちを非難し、殺戮工場や大量殺人についての話をでっち上げました。そこで彼らは、私たち自身の人種的親族を利用して、私たちに復讐したのです。

戦争中、あなたに何が起こりましたか？

エーリッヒ: 私は最後まで新聞社で働きました。特典も多くてとても良い作品でした。心雑音があるため兵役を免除されました。私はフュルトに滞在しましたが、そこにはまだ多くのユダヤ人が住んでいたため、激しい爆撃を免れました。 1940 年に私たちは被害を受け、戦時中には飛行場と近くの工場に対するさらに数回の攻撃がありました。状況は 1944 年まで悪くなりませんでしたが、そのとき連合国は可能な限りの攻撃を行いました。

労働条件は私にとってとても良かったです。問題が完了するとすぐに、回復するための休暇が与えられました。私は美しい秘書と出会い、1940年に関係を始めました。 1943年に私たちは結婚し、シュトライヒャーは私たちを2週間の新婚旅行のためにビアリッツに送ってくれました。これには食費や追加料金も含まれており、とてもありがたかったです。

私の妻の兄弟は、ここニュルンベルクで対空砲台に勤務していました。空襲中、私たちは彼の銃の発砲音が絶え間なく聞こえました。ニュルンベルクでは定期的に警報が鳴り響き、人々が警報を私たちのものではないと無視し始めたため、しばしば私たちの仕事に支障をきたし、時には不必要な死を招くこともありました。終わりが近づくにつれ、たしか45年の初めだったと思いますが、私たちは生産を中止し、ハロルズバーグの友人の家に逃げました。文字列



破壊されたニュルンベル
ク 破壊されたニュルンベルクのこのカラー画像は、ニュルンベルクでの戦闘終了から 1 年以上経った 1946 年の夏に、アメリカ人写真家レイ ダダリオによって撮影されました。空襲による傷跡がはっきりと残っています。 1941 年から 1945 年までの標準著作物には、41 件の空からの攻撃が記録されています。

彼は私たちの無事を祈っていましたが、彼は非常に運命論的で、もう終わりだ、敵と会うことになる、と言ったのを覚えています。

それが私が彼に会った最後でした。彼は息子のアデルとウクライナ人女性の一人とともに農場に戻る途中だった。私たちにとっても終わりでした。連合国は全員に、戦争中に自分たちが何をしたかを証明するよう強制した。私は免除証明書を見せて、爆撃で他の書類を失ったこと、そして私はただの印刷業者だったことを言いました。連合軍のキャンプに行く気はしませんでした。後で読んだのですが、ユダヤ人の警備員がドイツ人を殴ったり、あらゆる種類の復讐行為で問題があったとのことです。

私は法廷にうんざりしており、茶番劇だと思っていました。
ドイツは私たちの信仰の未来のためにさらに多くの殉教者を出しました。いつの日か、彼らが無実で亡くなり、ユダヤ人の憎しみの犠牲者であったことが世界に知られるでしょう。



1946 年 10 月 1 日、ユリウス シュトライヒャーは、戦争の敵が彼を殺害することを決定したことを有罪判決の形で知らされました。 1946年10月16日、ニュルンベルクで首吊りによる司法殺人が起きた。彼の遺灰はアメリカ占領軍によってヴェンツバッハに散骨された。彼の最後の言葉は次のとおりでした。

イル•ヒトラー !これは神に 私のプリム祭り1946年。 私「ハ行くことです。ボリシェヴィキはいつかあなたも絞首刑にするでしょう。」

ストライカー

ユリウス•シュトライヒャー

総統は生きてい
る 総統は死んではいない !彼は敬虔な精神を創造しながら生き続けています。彼女は、総統が生きている間に総統を理解できない運命にあった人々の命よりも長生きするだろう。彼らは墓に沈んで忘れ去られるでしょう。しかし、指導者の精神は未来に影響を与え、奴隷にされた人々と騙された人類の救い主となるでしょう。

ユリウス•シュトライヒャー - 政治的遺言 (1945)